

## 妙一尼御前御返事

弘安三年五月一八日 五九歳

夫<sup>それ</sup>信心と申すは別にはこれなく候。妻の<sup>夫</sup>を<sup>と</sup>こをおしむが如く、を<sup>と</sup>この妻に命をすつるが如く、親の子をすてざるが如く、子の母にはなれざるが如くに、法華経・釈迦・多宝・十方の諸仏菩薩・諸天善神等に信を入れ奉りて、南無妙法蓮華経と唱へたてまつるを信心とは申し候なり。しかのみならず「正直捨方便、不受余経一偈」の経文を、女のか<sup>鏡</sup>みをすてざるが如く、男の刀をさすが如く、すこしも<sup>捨</sup>すつる心なく案じ給ふべく候。あなかしこ、あなかしこ。

五月十八日

日 蓮 花 押

妙一尼御前御返事